令和７年８月発行　川崎市保健所中原支所
中原区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
衛生課　感染症対策係TEL:044-744-3280　FAX:044-744-3342

結核は過去の病気ではありません ～高齢者施設むけ結核基礎知識～

「感染」と「発病」は違います

「感染」とは

結核菌が体内に入り、それに対する身体の反応が起こっている状態です。体の免疫で菌の活動は抑え込まれています。

「発病」とは

結核菌の活動により発熱や咳、胸部Ｘ線写真に影が出るなどの症状が出現した状態で、治療を要します。病状が進行して、**痰の中に菌が排出される（「排菌」＝感染性が高い）**ようになると、人にうつす可能性も出てきます。

※感染しているだけで発病していなければ人にうつすことはありません。

結核はどんな症状？

結核の症状は風邪によく似ていますが、**２週間以上続く**咳や痰、微熱・身体のだるさ、体重減少などがあります。

数年以上に渡り胸部Ｘ線検査の実施機会がないと、本人の気づかない間に病気が進行し、「排菌」する状態になってから診断に至ることがあります。

結核患者はどの位いるの？

令和５年には国内で新たに 10,０９６人（川崎市１０８人、中原区１７人）が患者として登録されています。中原区では人口増加傾向が続いていますが、結核患者数はここ数年減少してきています。

全国的にも結核罹患率（人口 10 万対患者数）が減少しています（全国 8.1、川崎市8.5、中原区6.4）。

そのため、結核という病気になじみのない方が増えていますが、高齢者は日本で結核がまん延していた時代に幼少期を過ごしており、既に結核菌に感染している人が多く、加齢や基礎疾患によって免疫力が低下すると結核を発病する人が多いのです。

令和５年では全患者数のうち 70 歳以上の方が６２％を占めています。

結核の治療

原則として６か月以上、複数の抗生物質を内服します。排菌していなければ、入院せず、外来（在宅や施設）で治療ができます。

※感染のみで発病していない状態（潜在性結核感染症）でも、発病予防のために内服治療を行う場合があります。

早期発見のために

日常的な健康観察

高齢者結核では、咳などの呼吸器症状がはっきりとあらわれない場合があります。

◇食欲がなくなった
◇体重が減ってきた
◇元気がない、
　歩けなくなった

等の症状が見られる事があります。

定期的な健康診断

症状が出る前に胸部 X 線検査で異常が見つかることがあります。

施設健診等の機会を活用しましょう。

利用開始時のチェックポイント

・「高齢者は結核のハイリスク者」です。

２週間以上続く呼吸器症状（咳、痰など）や胸部Ｘ線所見で異常があれば、施設医等に相談しましょう。

・結核等の既往歴や治療中の病気を確認しましょう。

接触者健診について

結核患者が出たとき時、保健所は必要に応じて接触者の健診を実施します。

医療機関

・結核の診断
・保健所への届出（直ちに）

↓

保健所

・患者、施設、医療機関等から情報収集
・健診対象者の選定

患者との接触時間、接触度合い、感染した場合の発病リスク等から判断し、選定

・健診の実施

【血液検査】結核の感染を調べる

【胸部Ｘ線検査】結核の発病を調べる

※健診の内容や実施時期は対象者により異なります。

急いで検査をしても正確な結果が得られないことがあります。

利用者や職員に結核患者が出たら、保健所にご相談ください。

施設職員皆さまの健康が大切

体調不良時は早めの受診を

高齢者介護に関わるあなたと、あなたの大切な人の”健康を守る”ために、日頃から身体の免疫力を維持する健康管理が重要です。

風邪等の症状がある時は無理せず早めの受診と休養を。

職員の定期健康診断

高齢者・障害者福祉施設等は、集団感染が起こりやすい場です。利用者だけでなく職員も、年１回の定期健康診断を受け、胸部 X 線検査で確認してください。